

ちかみちよりも

# まわりみち

vol.8

-Contents-

塾長の活活算数講座 里語とぞうきん

2024年4月までの活動予定

活ママの「教えてください」③一落語編一

大人が読みふける児童文学⑤ あらしの前/あらしのあと



豊かな発想力を一生の財産に

! 松江算数活塾

## まわりみち

松江算数活塾通信 1月下旬号  
2024年1月15日発行 vol.8(毎月2回発行)

発行・編集/松江算数活塾  
〒690-0871 松江市東興谷町386-7 TEL 0852-67-8005  
<https://katsujuku.net>

児童文学愛好家 天野和子

岩波少年文庫 小学5・6年以上

『あらしの前』『あらしのあと』ドラ・ド・ヨング作 吉野源三郎訳

『あらしのあと』では、ナチス占領から六年後が描かれます。もう戦争は終わっていますが、子どもたちにはそれぞれ戦争の影響が色濃く残ります。ヤープは、ヤンは、ルトは、どうしているでしょう？ミープは無事だったのでしょうか？ヴェルナーは生きていますか？ここに結果だけ書いても伝えきれないものが多すぎるので、ぜひこの2冊を読んでみてください。確かに言えることは、オールド夫妻も、子どもたちも、そしてヴェルナーも、あらしに翻弄されながら一生懸命生きたということです。

ウクライナやガザの人たちのことを思う時、日本でも戦争があったことを思う時、この物語がよみがえってきます。今こそ読んでほしい本です。

通し車を走らせ、病気療養中のルトを家に連れ戻します。そして休む間もなく、今度はヴェルナーをナチスから逃がすために、また車を走らせるのです。

オランダの作家ヨングさん自身も、ナチス侵入の数日前にオランダを離れて命をつなぎ、その後アメリカに渡って作品を発表した人です。



# 里語のぞうきん

$$e^{i\pi} + 1 = 0$$

里語シリーズを足かけ2年に渡ってお送りしています。今回もビッグなお話です。

松江算数活塾の教室には、里さんからいただいた何ともスケールの大きいぞうきんがあります。それは、なんと、オイラーの等式が刺繍されているぞうきんです。オイラーと聞いただけでスケールの大きさは感じていただけるでしょうけれど、もう少しオイラーの等式について解説させていただきます。

数学は、計算法則や方程式の解き方などを研究する代数学、図形や空間について研究する幾何学、微分や積分などの関数について研究する解析学の3分野を基本にして構成され、その3分野のそれぞれの研究によって、代数学からは虚数単位「i」が、幾何学からは「π」が、解析学からはネイピア数「e」が誕生しました。

1748年オイラーの等式は発表されましたが、数学の3分野から誕生した特別な数が、極めてシンプルに表現されているので、人類の至宝とも呼ばれています。

そのオイラーの等式がぞうきんに刺繍されているんです。

「とてもスケールの大きいぞうきんですね。」

「そうなの。ぞうきんは大きいのよ。」

「?!」

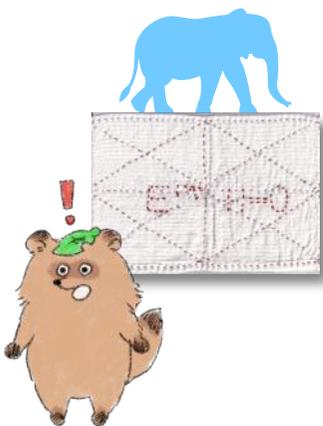
「ぞうさんよりも」

「?!」

「ぞうさん十一||ぞうきんでしょ。ぞうさんよりも1大きい。」

里語に導かれ、複素平面を飛び出して、ワールドを飛び回っています。

(塾長 川上宜久)



読物「活塾草紙」 大人が読みふける児童文学⑤

## あらしの前

## あらしのあと

この本を手にとったきっかけは、斎藤惇夫さんの著書『子ども、本、祈り』を読んだことです。子どもの本の編集に長く携われ、ご自身も『冒険者たち』（アニメや舞台「ガンバの冒険」の原作としても有名）などを書かれた斎藤さんが、この本を「生きる指針となった物語」と紹介されていたのです。斎藤さんのおかげで、今まで読まなかったことが悔しくなるほど良い本と出合うことができました。

オランダの静かな村で暮らすオールト一家の、第二次世界大戦をはさむ数年間の物語です。お父さんファン・オールトは親切なお医者さん。やさしく芯の強いお母さん。個



性豊かな六人の子どもたち。長女ミープはしつかり者で、社会事業学校で学んでいます。音楽好きでピアノの練習に励む長男ヤープ。次男ヤンは勉強嫌いで心配をかけていますが、あることをきっかけに父と同じ医者を目指す。次女ルトは感受性豊かな少女。はにかみやですが魅力的で、私の一番好きな登場人物です。それにいたらずら盛りの三男ピムと、生まれたばかりの赤ちゃんアンネ。

幸せにくらしていたオールト一家のもとに、ドイツから逃れてきたユダヤ人少年ヴェルナーが加わります。やがて、ここなら安全と思われた静かな村にも、戦争という「あらし」がおそいかかります。ミープは怪我を負いながらも夜